

理事長挨拶

公益社団法人緑丘会理事長 島崎 憲明（昭44年卒）



平素は同窓会活動に格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様におかれましては、昨年来のコロナ禍でご苦勞の多い中、ご健勝にて新春を迎えられたことと存じます。新型コロナウイルス感染症の拡大は全国各地で勢いを増しており、なかでも母校のある北海道では医療崩壊の危機などが危惧されているところですが、ワクチンの開発などにより一日も早く終息に向かうことを願うばかりです。

ーコロナ禍の緑丘会活動を振返ってー

2019年11月末に初発症が確認された新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、我が国においても深刻さが増した一年でした。このような厳しい環境の下で緑丘会は次のような活動を行ってきました。

1.各支部活動と全国支部長会議の開催

全国各支部における新入会員歓迎会、芋煮会・ジンギスカンパーティー・懇親ゴルフ会・クリスマス会などの各種イベント、新年会はそのほとんどが中止となり、同窓会としての絆を深める機会が激減した一年でした。そのような中で、当初2月末に予定し、コロナ禍で延期していた第4回全国支部長会議を10月にハイブリッド方式で開催しました。穴沢学長をはじめ総勢40名が出席し、冒頭に学長から大学の状況についてお話いただいた後、各支部長・緑丘会各委員会から活動報告があり、続いて110周年記念募金委員会からの報告、学生への就職支援等大学との連携強化策などについて、2時間半にわたり議論・意見交換をしました。

2.緑丘会定例会議、大学との懇話会の開催

緑丘会理事長・副理事長・事務局長等による緑丘会定例会議及び学長・副学長と緑丘会理事長・副理事長による懇話会は一昨年から新たに設けた会議体で、原則として隔月に開催しています。昨年度は緑丘会の定例会を6回、大学との懇話会を6回開き組織運営上の諸課題の洗い出しと深度ある議論、並びに緑丘会の大学・学生への支援と連携などについて意見交換をおこないました。コロナの影響で中断を余儀なくされた期間もありましたが、WEBでの対応などにより必要なコミュニケーションは維持できたと思っています。直近の昨年12月に開催した懇話会での主なアジェンダは次のような事項でした。

- ・110周年記念募金、記念事業（記念祝賀会、記念シンポジウム開催など）について

- ・今年度の学生の就職状況と来年度に向けた課題、緑丘会の協力・支援について
- ・大学の広報体制と広報予算について
- ・三大学の学校法人統合に向けた議論について

3.緑丘会館の WEB 会議システム改修とハイブリッド方式の会議・セミナー

コロナ禍で対面の会議やセミナーの開催が制約される中、WEB 会議システムを利用することにより必要最低限の対応ができておりました。しかしながら、回線容量や映像・音響などに問題があり数十名参加の WEB 会議では種々の不具合が発生したため、インフラのグレードアップを 10 月に実施し、環境を大きく改善しました。会員の皆様の自宅パソコンから緑丘会館の WEB システムにアクセスして最大 200 名での会議やセミナーが可能となりました。10 月末に開催した「第 13 回緑丘ビジネス塾」では 66 名の方が全国からオンラインと対面で参加しました。また、11 月末に開催した東京支部主催の山本賢司名誉教授による講演会も同様の方法で開催し 47 名の参加がありました。ウイズコロナの状況はしばらく続くと思われるのでオンラインを活用したコミュニケーションの維持・促進が大きな課題とされています。

—母校創立 110 周年に向けて～【記念募金のお願い】—

本年 7 月に母校は創立 110 周年を迎えます。それに向けての記念事業を推進するために昨年 3 月から「小樽商科大学創立 110 周年記念募金」をスタートいたしました。現時点での状況は、同窓生各位から絶大なご支援をいただき、募金目標額 1 億 1,500 万円に対して募金実績は 1 億 1,011 万円（進捗率 96%）となっております。募金の目標金額は当初 1 億円でスタートしましたが、昨年 6 月に、コロナ禍で経済的に困窮している学生への給付型奨学金の原資として 1,500 万円を大学に寄付贈呈しましたので、この金額を増額して募金目標を 1 億 1,500 万円に見直しました。

大学・学生に対する 4 つの支援事業

① 学生の課外活動支援事業として	5,000 万円
② 学生の国際交流支援事業として	4,000 万円
③ 研究者の国際交流支援事業として	1,000 万円
④ 新型コロナウイルス感染拡大による学生支援事業として	1,500 万円

合計 1 億 1,500 万円

創立記念募金の期間は 2022 年 3 月までで、残すところあと 1 年となりました。緑丘会といたしましては、従来にも増して、大学・学生に対して物心両面での支援が必要と考えております。皆様におかれましては、今回の支援事業につきまして格段のご理解を賜りご支援のほどよろしくお願い申し上げます。既に寄付いただきました方におかれましても、誠に恐縮な

から追加の寄付をご検討いただければ幸いです。

令和3年2月